

NEC iStorageシリーズ iStorage NS300Ra

1

本製品について

本装置の各部の名称やその機能、特長について説明します。

「本製品の紹介」(2ページ)

本製品の紹介とその特長、機能について説明します。また、添付のCD-ROMやDVD-ROMと代表的なバンドルソフトウェアについて説明しています。

「各部の名称と機能」(9ページ)

本体の各部の名称と機能についてパーツ単位に説明しています。

「基本的な操作」(19ページ)

電源のONやOFFの方法、およびディスクのセット方法、クライアントマシンから本装置へのアクセス方法などについて説明しています。

本製品の紹介

本製品について紹介します。

主な特長と機能

本装置はネットワーク上のクライアントPCが利用するさまざまなデータやデータベースをハードディスクドライブに格納することにより、資産の共有化と一元管理化を目的としたネットワークファイルサーバです。

- **Network Attached Storage (NAS)**

NASとは、既存環境に対する変更を加えることなく、大規模ストレージシステムを提供するネットワーク接続型ストレージに特化したアプライアンスサーバです。

一般的にNASは非常に導入が容易です。ユーザーはNASをネットワークに接続、電源を投入し、最小限のセットアップを行うだけで運用を開始することができます。通常業務は、クライアントからリモートデスクトップを利用して行います。

- **高速なファイルサービス**

ファイルサービスに最適化した専門設計により、高コストパフォーマンスを実現します。

- **高い処理性能**

- ー NAS (Network Attached Storage) サーバとしての性能向上に必要な機能のみを実装した専用サーバ
- ー ファイルアクセスの性能をチューニングし、優れたパフォーマンスを提供
- ー マルチプロトコルに対応

- **高い運用管理能力**

システム運用管理ソフトウェアESMPROで他のサーバ、ワークステーションと連携し、稼働状況の遠隔管理も可能です。

- **高信頼性**

- ー 出荷時のシステムディスクは標準構成の場合、NF8100-182/183/184はRAID5のRAIDシステムで構成されています。
- ー DDR3-1333のSDRAM (メモリ) のエラー訂正機能。

- **拡張性**

メモリや各種PCIカードなど多種多様な内蔵オプションデバイスを搭載することができます。

● 管理機能

- － iStorage NS連携モジュール

ESMPRO/ServerManager (Ver.5未満) がインストールされているコンピュータで使用するにより、本装置を管理するためにリモートデスクトップを起動することができます。

- － システム運用管理ソフトウェアESMPROとの統合

ESMPRO/ServerManagerによる一元管理や稼動状況の遠隔監視が可能になります。

- － RAIDシステム管理ソフトウェアによる運用・管理

RAIDシステムの構築、設定、管理には、「SuperBuildUtility」や、「Universal RAID Utility」を使用します。

- － エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) をお申し込みいただくことで、管理センターからの遠隔管理が可能になります。

● ファイルサーバ機能

- － マルチプロトコル対応

CIFS、NFS、FTP、HTTPのマルチプロトコルに対応。WindowsやUNIX、Linuxなどが混在する既存のネットワーク環境に設置するだけで簡単にそのネットワーク環境での記憶容量を拡張することができます。

ファイルアクセス制御 ファイルシステムにNTFSを使用することでファイルのアクセス制御をきめ細かく設定できます。

- － ファイルアクセス制御

ファイルシステムにNTFSを使用しているため、ファイルのアクセス制御をきめ細かく設定できます。

電源制御機能の使用について

本装置には電源制御機能をサポートしていないアプリケーションが含まれています。スタンバイ/休止状態で運用しないでください。

修正モジュールについて

システムのリビジョンアップや修正モジュールの適用は、弊社が指定するものを弊社の指示に従って適用する必要があります。マイクロソフト社が一般に公開している修正モジュールをマイクロソフト社の指示に従って適用することはできません。システムのリビジョンアップや修正モジュールの指示は、以下のURLまたはPP・サポートサービス*¹にて公開しています。

<http://support.express.nec.co.jp/istorage/>

*¹ PP・サポートサービスでは、上記 URL では公開していない最新の修正モジュールを入手することができます。ご契約については、販売店にご確認ください。

添付のディスクについて

本装置には、セットアップや保守・管理の際に使用するCD-ROMやDVD-ROMが添付されています。ここでは、これらのディスクに格納されているソフトウェアやディスクの用途について説明します。



添付のディスクは、システムのセットアップが完了した後でも、システムの再セットアップや保守・管理の際に使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

● iStorage NS300RaバックアップDVD-ROM

システムのバックアップとなるDVD-ROMです。再セットアップの際は、このDVD-ROMから本装置へソフトウェアをインストールします。詳細は「オペレーティングシステム(OS)の再インストール」(224ページ)を参照してください。



購入時のハードディスクドライブには、本装置に必要なOSやモジュール、コンポーネント、管理用アプリケーションがすべてインストール済みです。運用開始時は、LANポートコネクタにケーブルを接続して電源をONした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの「初期設定ツール」を使用して、簡単にセットアップができます。

DVD-ROMの中にはおもに次のOSやコンポーネント、モジュール、アプリケーションが格納されています。これらは、再セットアップの際に自動的にインストールされます。

- Microsoft Windows Storage Server 2008 OSと本装置に必要な関連モジュール（サービスパックを含む）
- ESMPRO/ServerAgent（管理用統合アプリケーション）
- Universal RAID Utility（RAIDシステム管理ユーティリティ）
- エクスプレス通報サービス（保守用アプリケーション・利用には別途契約が必要です）
- エクスプレス通報サービス（HTTPS）（保守用アプリケーション・利用には別途契約が必要です）
- その他、専用デバイスドライバや専用モジュール

● EXPRESSBUILDER CD-ROM

本体およびシステムの保守・管理の際に使用するCD-ROMです。このCD-ROMには各種ソフトウェアが格納されており、その用途に合わせて使用されます。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットすると、「オートランで起動するメニュー」が起動します。

「オートランで起動するメニュー」からはドキュメントの参照や、Windows上で動作する次のソフトウェアの実行やインストールをすることができます。

- － 初期設定ツール
- － ESMPRO/ServerManager

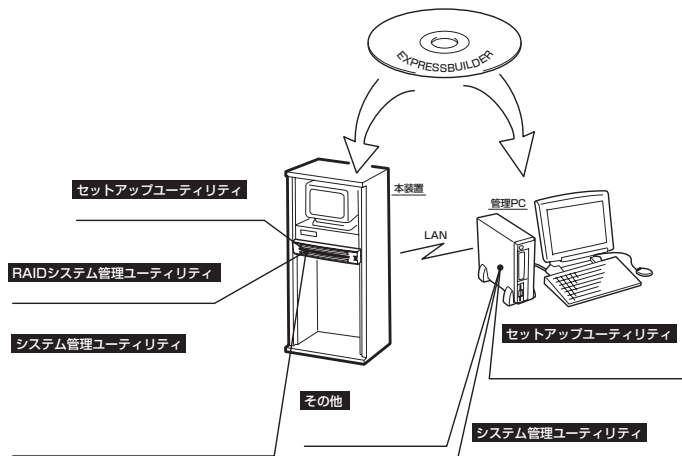


セットしたタイミングによっては、自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットした光ディスクドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

CD-ROM を本体の光ディスクドライブにセットして CD-ROM から起動すると、EXPRESSBUILDERによる本体の保守・管理をすることができます。

管理アプリケーションの用途

添付のディスクに格納されている管理アプリケーションの用途について簡単に説明します。



ESMPRO

「ESMPRO®」は、NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェアです。

リモートでシステムの稼働状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

本装置を運用する際は、ESMPROを利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

詳細は「ESMPRO/ServerAgent, ServerManager」(55ページ)を参照してください。



本装置を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」は「iStorage NS300RaバックアップDVD-ROM」に、本装置を管理するためのソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、本装置をリモート管理する「ESMPRO/ServerAgent Extension」、本装置のモジュール管理をする「ExpressUpdate Agent」は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されています。ESMPRO/ServerAgentはあらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

また、ESMPROには、サーバ管理用ソフトウェアをはじめ、ネットワーク管理や電源管理、ストレージ管理を行う専用のアプリケーション（ESMPROプロダクト）が用意されています。ESMPROプロダクトについては、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

iStorage NS連携モジュール

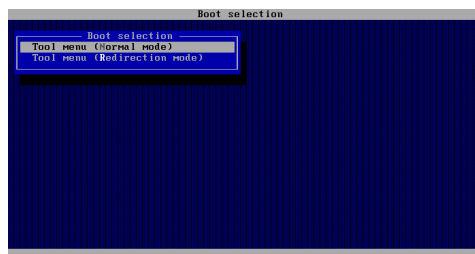
ESMPRO/ServerManager（Ver.5未満）がインストールされている環境にiStorage NS 連携モジュールを適用することで、ESMPRO/ServerManager（Ver.5未満）よりリモートデスクトップを起動することができます。

Universal RAID Utility

Universal RAID Utilityは、本体装置内蔵のRAIDコントローラ(N8103-109相当内蔵)の管理、監視を行うアプリケーションです。詳細は63ページを参照してください。
Universal RAID Utilityのインストールおよび操作方法、機能については、添付のEXPRESSBUILDERに収録している「Universal RAID Utility Ver2.1ユーザーズガイド」を参照してください。

EXPRESSBUILDER

本装置の保守をする際に使用します。詳細は「EXPRESSBUILDER」（72ページ）を参照してください。



オートランで起動するメニュー

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、Vista、Windows Server 2003またはWindows Server 2008 が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。

メニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。詳細は54ページを参照してください。



初期設定ツール

本製品のセットアップする時に使用するツールです。このツールを使ってコンピュータ名やネットワークの設定します。詳細は「初期設定」(45ページ)を参照してください。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されています。



エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) に登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。



エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) の利用には別途契約が必要です。

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) は「iStorage NS300Ra バックアップDVD-ROM」に格納されています。あらかじめシステムの一部として本体に組み込まれています。また、再セットアップの際にも自動的にインストールされます。

各部の名称と機能

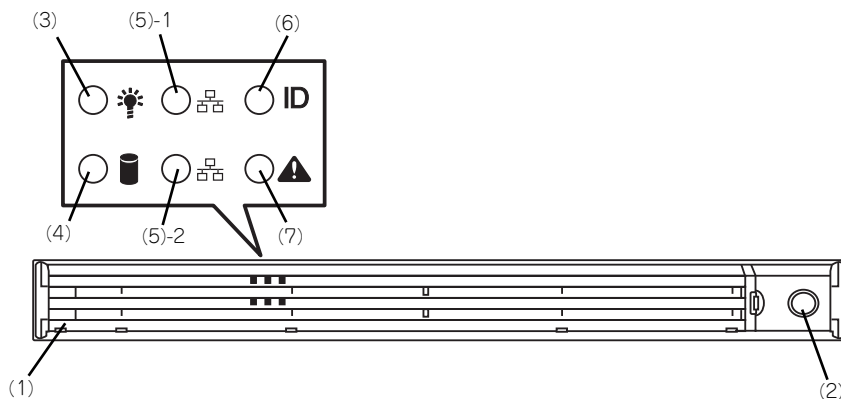
本体の各部の名称を次に示します。

本装置の各部の名称を次に示します。



ここで示していないスイッチやコネクタは使用しません。使用すると故障の原因となります。

装置前面



(1) フロントベゼル

日常の運用時に前面のデバイス類を保護するカバー。添付のセキュリティキーでロックすることができる。

(2) キースロット

フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差し口。

(3) POWERランプ (緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する (15ページ)。

(4) DISKアクセスランプ (緑色/アンバー色)

内蔵のハードディスクドライブや光ディスクドライブにアクセス時に緑色に点灯する。RAIDコントローラを使用する時は、内蔵ハードディスクドライブのうち、いずれか1つでも故障するとアンバー色に点灯し、リビルド中は点滅する (17ページ)。

(5) ACT/LINKランプ (緑色)

システムがネットワークと接続されているときに点灯する (17ページ)。

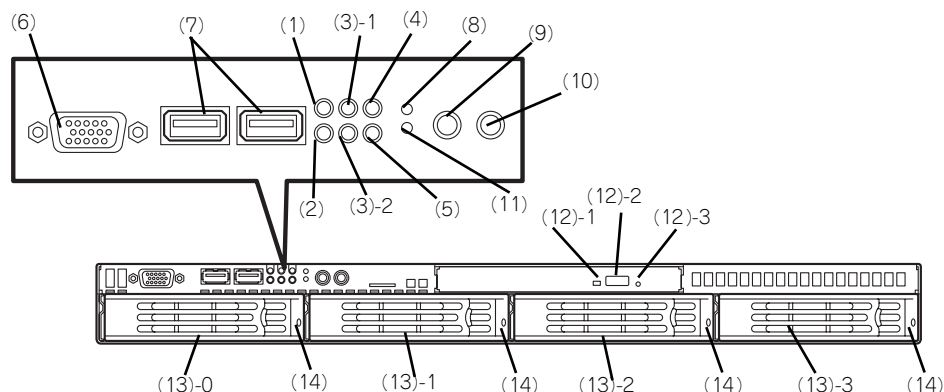
(6) UID(ユニットID)ランプ (青色)

UIDスイッチを押したときに点灯する (ソフトウェアからのコマンドによっても点灯または点滅する (17ページ))。

(7) STATUSランプ (前面) (緑色/アンバー色)

本装置の状態を表示するランプ (15ページ)。正常に動作している間は緑色に点灯する。異常が起きるとアンバー色に点灯または点滅する。

装置前面（フロントベゼルを取り外した状態）



(1) POWERランプ（緑色）

電源をONにすると緑色に点灯する（15ページ）。

(2) DISKアクセスランプ（緑色/アンバー色）

内蔵のハードディスクドライブや光ディスクドライブにアクセス時に緑色に点灯する。RAIDコントローラを使用する時は、内蔵ハードディスクドライブのうち、いずれか1つでも故障するとアンバー色に点灯し、リビルド中は点滅する（17ページ）。

(3) ACT/LINKランプ（緑色）

システムがネットワークと接続されているときに点灯する（17ページ）。

(4) UID(ユニットID)ランプ（青色）

UIDスイッチを押したときに点灯する（ソフトウェアからのコマンドによっても点灯または点滅する（17ページ））。

(5) STATUSランプ（前面）（緑色/アンバー色）

本装置の状態を表示するランプ（15ページ）。正常に動作している間は緑色に点灯する。異常が起きるとアンバー色に点灯または点滅する。

(6) モニタコネクタ

ディスプレイ装置を接続するコネクタ（→40ページ）。

(7) USBコネクタ

USBインターフェースに対応している機器と接続する（→40ページ）。

(8) リセットスイッチ

押しとリセットを実行する。通常は使用しない。

(9) UID(ユニットID)スイッチ

UIDランプをON/OFFにするスイッチ。スイッチを一度押しと、UIDランプが点灯し、もう一度押しと消灯する（→17ページ）。

(10) POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ（→19ページ）。一度押しとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押しと電源をOFFにする（ランプは消灯する）。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする。スリープ機能を持つOSでは、スリープスイッチとして使用することもできる（→15ページ）。スリープモード（スリープ）で動作している間は点滅する（対応しているOSでのみ動作する）。

(11) DUMP(NMI) スイッチ

押しとメモリダンプを実行する。通常は使用しない。

(12) 光ディスクドライブ(オプション)

本装置では、DVD-ROMドライブ、DVD Super-MULTIドライブはオプション（→23ページ）。

(12) - 1 ディスクアクセスランプ

(12) - 2 トレーイジェクトボタン

(12) - 3 強制イジェクトホール

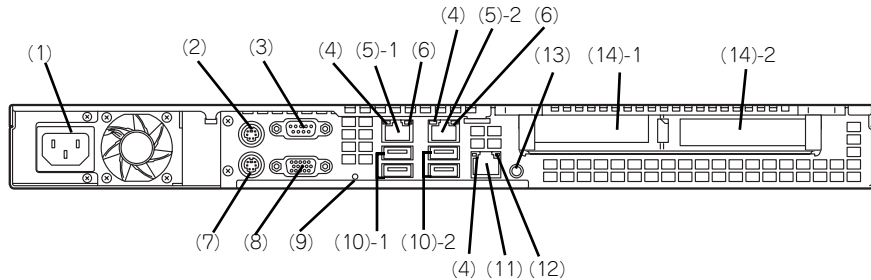
(13) ハードディスクドライブベイ

最大4台まで搭載可能（88ページ）。括弧数字の後の数字はチャネル番号を示す。

(14) DISKランプ（緑色/アンバー色）

ハードディスクドライブにあるランプ。ハードディスクドライブにアクセス時に緑色に点灯する。RAIDコントローラを使用する時は、内蔵ハードディスクドライブが故障するとアンバー色に点灯し、リビルド中は緑色とアンバーに点滅する。

装置背面



(1) 電源コネクタ

ACコードを接続するコネクタ (→40ページ)。

(2) マウスコネクタ

PS/2対応のマウスを接続するコネクタ (→40ページ)。

(3) シリアルポートB(COM B)コネクタ

シリアルインターフェースを持つ装置と接続する (→40ページ)。

(4) LINK/ACTランプ (緑色)

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスとリンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態にあるときに緑色に点滅する (→17ページ)。

(5) LANコネクタ

1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tと接続するコネクタ (→40ページ)。LAN上のネットワークシステムと接続する。末尾の数字はポート番号を示す。

* OS上のポート番号と一致しない場合があります。

(6) SPEEDランプ(1000/100/10ランプ)

LANの転送速度を示すランプ (→17ページ)。

(7) キーボードコネクタ

PS/2対応のキーボードを接続するコネクタ (→40ページ)。

(8) モニタコネクタ

ディスプレイ装置を接続するコネクタ (→40ページ)。

(9) POWERランプ (緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する。

(10) USBコネクタ

USBインターフェースに対応している機器と接続する (→40ページ)。

(11) マネージメント専用LANコネクタ

100BASE-TX/10BASE-Tと接続するマネージメント専用LANのコネクタ (→40ページ)。

(12) SPEEDランプ(100/10ランプ)

マネージメント専用LANの転送速度を示すランプ (→17ページ)。

(13) UIDスイッチ/ランプ (青)

UIDランプをON/OFFにするスイッチ。スイッチを一度押すと、UIDランプが点灯し、もう一度押すと消灯する (→17ページ)。導通のない細い棒で押してください。

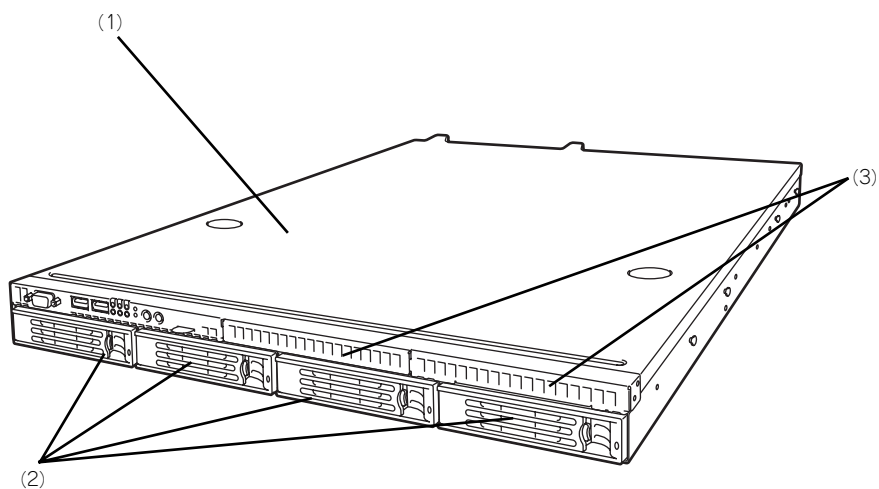
(14) PCIボード増設用スロット

オプションのPCIボードを取り付けるスロット。

(14) - 1 ロープロファイルPCIボード

(14) - 2 ロープロファイルPCIボード

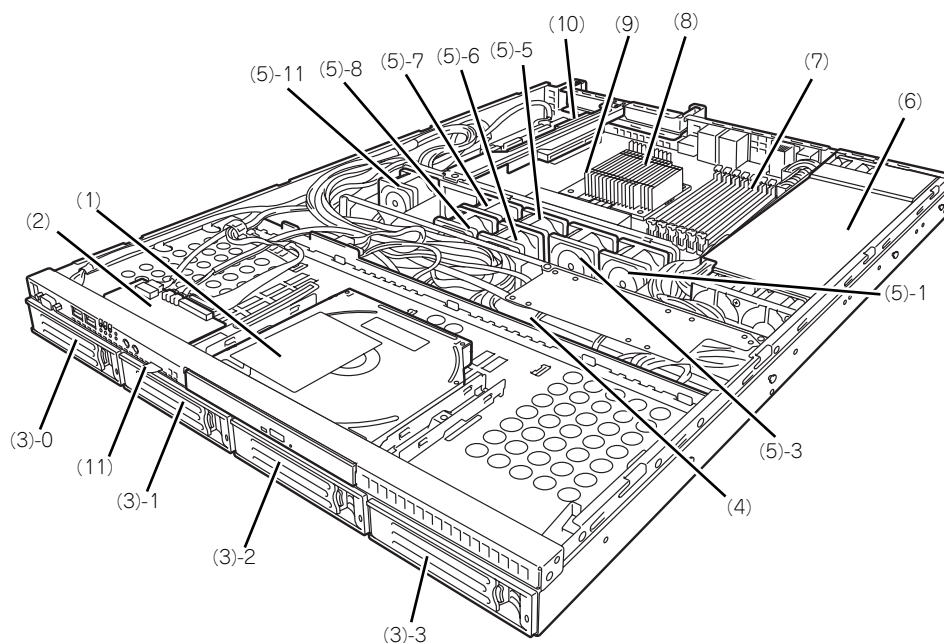
装置外観



- (1) トップカバー
- (2) ハードディスクドライブベイ
- (3) バックアップデバイスベイ

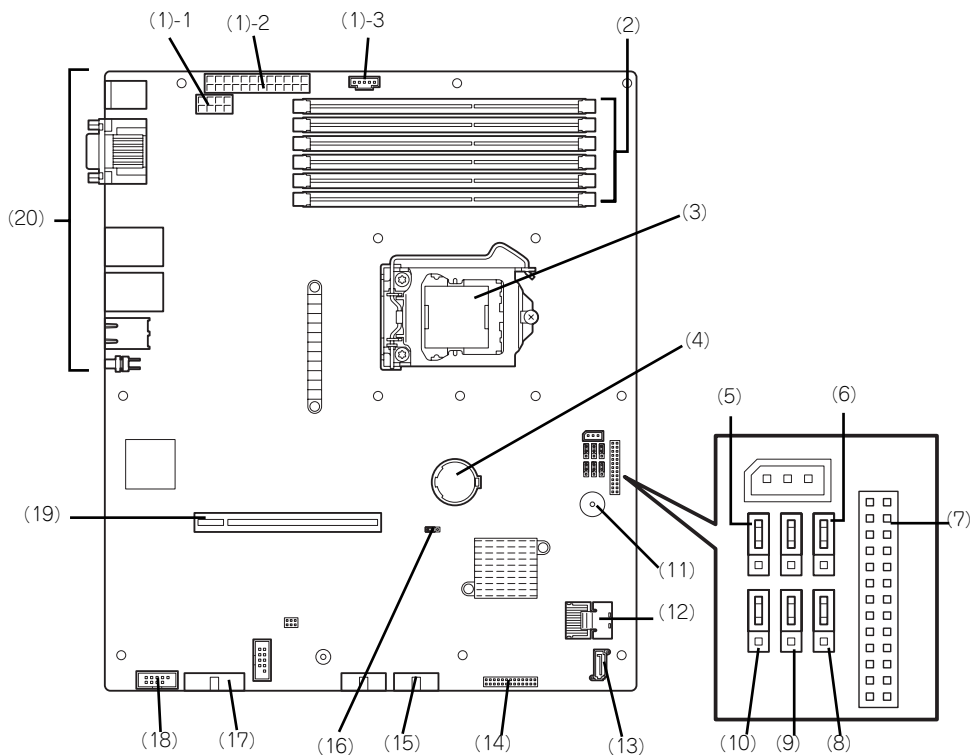
装置内部

図はプロセッサダクトを省略しています。



- | | |
|--|-----------------|
| (1) 光ディスクドライブ (オプション) | (6) 電源ユニット |
| (2) フロントパネルボード | (7) DIMM |
| (3) ドライブベイ (末尾の数字はドライブベイ番号を示す) (ハードディスクドライブはオプション) | (8) ヒートシンク |
| (4) バックプレーンボード | (9) マザーボード |
| (5) 冷却ファン (末尾の数字はファン番号を示す) | (10) PCIライザーカード |
| | (11) スライドタグ |

マザーボード



(1) 電源コネクタ

- (1) - 1 電源コネクタ 8ピン
- (1) - 2 電源コネクタ 24ピン
- (1) - 3 電源コネクタ 5ピン

(2) DIMMソケット

(上から2、4、6、1、3、5)

(3) プロセッサソケット

(4) リチウム 배터리

(5) 冗長ファン切り替えジャンパ

設定については110ページを参照してください。

(6) パスワードクリアジャンパ

設定については145ページを参照してください。

(7) バックパネルボード接続コネクタ

(8) BIOSリカバリジャンパ

(9) SATA RAIDジャンパ

(10) PSUジャンパ

(11) スピーカ

(12) Mini-SASコネクタ

(13) SATAコネクタ

(14) フロントパネルボード接続コネクタ

(15) フロントUSBコネクタ

(16) CMOSクリアジャンパ

(17) フロントVGAコネクタ

(18) シリアルポートAコネクタ

(19) PCIライザーカードスロット

(20) 外部接続コネクタ/外部からの操作スイッチ

ランプ表示

本体前面には8つ、背面には3つのランプがあります。ランプの表示とその意味は次のとおりです。

POWERランプ (💡)

本体前面に1個あります。本体の電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。省電力機能をサポートしているOSで、省電力モードに切り替えるとランプが点滅します。

STATUSランプ (⚠)

本体前面にあります。ハードウェアが正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。STATUSランプが消灯しているときや、緑色に点滅、またはアンバー色に点灯/点滅しているときはハードウェアになんらかの異常が起きたことを示します。次にSTATUSランプの表示の状態とその意味、対処方法を示します。



- ESMPROやオフライン保守ユーティリティ等を使ってシステムイベントログ (SEL) を参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はリセット、強制電源OFFをするか (144ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

| STATUSランプの 状態 | 意 味 | 対処方法 |
|------------------|------------------------|--|
| 緑色に点灯 | 正常に動作しています。 | — |
| 緑色に点滅 | メモリが縮退した状態で動作しています。 | BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を使って縮退しているメモリを確認後、早急に交換することをお勧めします。 |
| | CPUエラーを検出した状態で動作しています。 | BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を使ってCPUの状態を確認後、早急に交換することをお勧めします。 |
| 消灯 | 電源がOFFになっている。 | 電源をONにしてください。 |
| 消灯 | POST中である。 | しばらくお待ちください。POSTを完了後、しばらくすると緑色に点灯します。 |
| | CPUでエラーが発生した。 | いったん電源をOFFにして、電源をONにし直してください。POSTの画面で何らかのエラーメッセージが表示された場合は、メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。 |
| | CPU温度の異常を検出した。 | |
| | ウォッチドッグタイマタイムアウトが発生した。 | |
| | メモリで訂正不可能なエラーが検出された。 | |
| | PCIシステムエラーが発生した。 | |
| | PCIパリティエラーが発生した。 | |
| | PCIバスエラーが発生した。 | |
| アンバー色に点灯 | 温度異常を検出した。 | ダンプを採取し終わるまでお待ちください。 |
| | | 内部のファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。 それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 |
| | 電圧異常を検出した。 | 保守サービス会社に連絡してください。 |
| アンバー色に点滅 | ファンアラームを検出した。 | 内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 |
| | 温度警告を検出した。 | 内部のファンにホコリやチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。 それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 |
| | 電圧警告を検出した。 | 保守サービス会社に連絡してください。 |
| | ハードディスクドライブが故障した。 | ハードディスクドライブを交換してください。 |

DISKアクセスランプ (🔦)

本体前面にあります。DISKアクセスランプは本体内部のハードディスクドライブや光ディスクドライブにアクセスしているときに点灯します。

アクセスランプ

本体前面にあるフロッピーディスクドライブと光ディスクドライブのアクセスランプは、それぞれにセットされているディスク、CD-ROMまたはDVD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

UID (ユニットID) ランプ

本体前面と背面に各1個あります。本体前面または背面にあるUIDスイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。ソフトウェアからのコマンドを受信したときは点滅で表示します。複数台の装置がラックに搭載された中から特定の装置を識別したいときなどに使用することができます。特にラック背面からのメンテナンスのときは、このランプを点灯させておくと、対象装置を間違えずに作業することができます。

LINK/ACTランプ (🔦1、🔦2)

本体前面と背面（LANコネクタ部分）に各1個あります。本体標準装備のネットワークポートの状態を表示します。本体とハブに電力が供給されていて、かつ正常に接続されている場合に点灯します（LINK）。ネットワークポートが送受信を行っているときに点滅します（ACT）。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルやケーブルの接続状態を確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク（LAN）コントローラが故障している場合があります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

SPEEDランプ (1000/100/10ランプ)

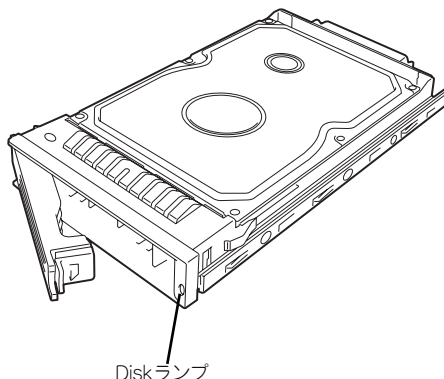
本体背面のLANコネクタ部分に各1個あります。本体標準装備のネットワークポートの通信モードが1000BASE-Tか、100BASE-TX、10BASE-Tのどちらのネットワークインタフェースで動作されているかを示します。アンバー色に点灯しているときは1000BASE-Tで、緑色に点灯しているときは100BASE-TXで動作されていることを示します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

AC POWERランプ

背面にある電源ユニットには、AC POWERランプがあります。ACインレットに電源コードを接続し、本体装置の電源をON（DC電源を本体に供給）すると、ランプが緑色に点灯します。本体装置の電源をONにしてもランプが点灯しない場合は、電源ユニットの故障が考えられます。保守サービス会社に連絡して電源ユニットの交換を実施してください。

Diskランプ

ハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを3台取り付けることができます。搭載するホットプラグ対応のハードディスクドライブにはランプが1つ付いています。その表示と機能は次のとおりです。



- **緑色に点滅**

緑色点滅でディスクへのアクセスが行われていることを示します。

- **アンバー色に点灯**

ハードディスクドライブが故障していることを示します。



RAIDシステムで論理ドライブ（RAID1、RAID5、RAID6、RAID10）を構成している場合は、1台のハードディスクドライブが故障しても運用を続けることができます。しかし、早急にハードディスクドライブを交換して、再構築（リビルド）を行うことをお勧めします（ハードディスクドライブの交換はホットスワップで行います）。

- **緑色とアンバー色で点滅**

ハードディスクドライブの再構築（リビルド）中であることを示します（故障ではありません）。RAIDシステムでは、故障したハードディスクドライブを交換すると自動的にデータのリビルドを行います（オートリビルド機能）。

リビルドを終了するとランプは消灯します。リビルドに失敗するとランプがアンバー色に点灯します。



リビルド中に本体の電源をOFFにすると、リビルドは中断されます。再起動してからハードディスクドライブをホットスワップで取り付け直してリビルドをやり直してください。ただし、オートリビルド機能を使用するときは次の注意事項を守ってください。

- 電源をOFFにしないでください（いったん電源をOFFにするとオートリビルドは起動しません）。
- ハードディスクドライブの取り外し/取り付けの間隔は90秒以上あけてください。
- 他にリビルド中のハードディスクドライブが存在する場合は、ハードディスクドライブの交換は行わないでください。

基本的な操作

基本的な操作の方法について説明します。

POWER/SLEEPスイッチ（電源のON/OFF）

前面にあるPOWER/SLEEPスイッチで本装置の電源をONにします。電源のOFFはクライアントマシンからリモートデスクトップ接続を使い、シャットダウン操作を行います。

電源のON

電源をONにする場合は、本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押します。
次の順序で電源をONにします。



ここでは、セットアップを完了した後の電源のONの手順について説明しています。導入後のセットアップを始めるときは、「システムのセットアップ」（44ページ）を参照してください。

1. 本体に電源コードが接続されていることを確認する。



ACインレットに電源コードを接続した後、POWER/SLEEPスイッチを押すまで10秒以上の時間をあけてください。

2. 本体に接続している周辺機器の電源をONにする。



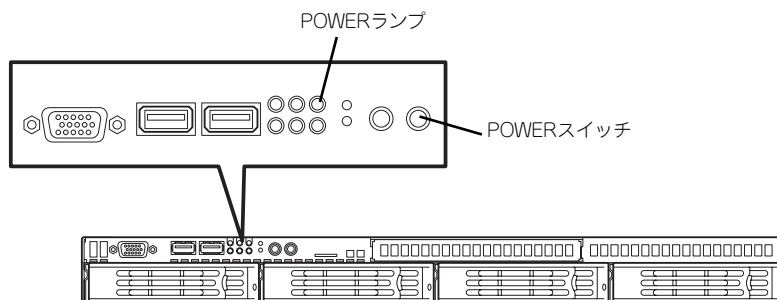
無停電電源装置（UPS）などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。



- 添付の「iStorage NS300RaバックアップDVD-ROM」を光ディスクドライブにセットしたまま電源をONするとソフトウェアの再インストールを始めます。それまでの設定がすべて初期値に戻ってしまいます。
- 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットしたまま起動するとディスクから起動するため、NASとしてのサービスを起動することはできません。

3. フロントベゼルを取り外す。

4. 本体前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押す。
本体前面のPOWER/SLEEPランプが緑色に点灯します。



5. クライアントマシンからリモートデスクトップを使って本装置へアクセスできることを確認する。
詳しくは「本装置への接続」(22ページ)を参照してください。

電源のOFF（および再起動）

本装置の電源のOFF(および再起動)を行う場合は、管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続し、スタートメニューからシャットダウン操作および再起動操作を行ってください。



装置の電源を一度OFFにした後、再びONにするときは10秒以上経過してからにしてください。無停電電源装置（UPS）に接続している場合も10秒以上経過してからONになるようにスケジューリングの設定をしてください。

POWER/SLEEPスイッチによる電源のOFF

本装置では、セキュリティの観点から、ログオンしていない状態でPOWER/SLEEPスイッチを押すことによるシャットダウンは実行できないようになっています。

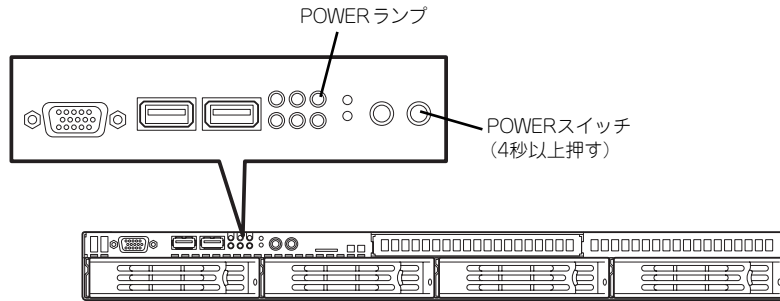
ネットワーク障害などによるリモートデスクトップ接続でのシャットダウンができない場合の対処として、事前に以下の設定を行い、POWER/SLEEPスイッチによるシャットダウンを有効にしてください（または、本装置にキーボード/マウス/ディスプレイを接続してシャットダウン処理をしてください）。

[ログオンしない状態でPOWER/SLEEPスイッチによるシャットダウンを有効にする方法]

1. 管理PCからリモートデスクトップにて本装置へ接続する。
2. Administrator権限を持つユーザで本装置にログオンする。
3. リモートデスクトップ内で[スタート]–[すべてのプログラム]–[管理ツール]–[ローカルセキュリティポリシー]を選択する。
4. [シャットダウン：システムをシャットダウンするのにログオンを必要としない]を[有効]に設定する。

強制電源OFF

「電源のOFF」に示す方法でクライアントマシンから本装置をシャットダウンできなくなったときや、POWER/SLEEPスイッチを押しても電源をOFFにできなくなったときに使用します。本体のPOWER/SLEEPスイッチを4秒ほど押し続けてください。電源が強制的にOFFになります。（電源を再びONにするときは、強制電源OFFから10秒ほど待ってから電源をONにしてください。）



本装置への接続

本装置の管理や設定は、管理PCよりリモートデスクトップまたはWebブラウザを使用してRDP Web サイトに接続して行います。

接続方法は以下の通りとなります。

- リモートデスクトップで接続する場合

1. 管理PC上でリモートデスクトップを起動する。
2. 接続先に本装置のコンピュータ名をまたはIPアドレスを入力する。
3. ユーザー名に「administrator」を入力し、次にパスワードを入力して[OK]をクリックする。

出荷時のパスワードはスタートアップガイドを参照してください。

- RDP Web サイトに接続する場合

1. 管理PCでブラウザを開く。
2. 本装置のコンピュータ名をまたはIPアドレスを入力し、末尾に “/desktop” をつける。(例えば、http://myStorageServer/desktop)
3. [リモート管理デスクトップ] で、ユーザー名に「administrator」を入力し、次にパスワードを入力する。

出荷時のパスワードはスタートアップガイドを参照してください。



ブラウザからの接続を行うためには、管理PCにてRDP Web サイト設定を行う必要があります。設定方法については管理者ガイドの「1.2 iStorage NSのリモート管理」を参照してください。

光ディスクドライブ

本体前面にオプションの光ディスクドライブを取り付けられます。光ディスクドライブには以下のタイプがあります。

- DVD-ROMドライブ（オプション）
多様な光ディスクの読み取りを行うための装置です。
- DVD Super MULTIドライブ（オプション）
多様な光ディスクの読み取り、書き込みを行うための装置です。

DVD Super MULTIドライブのソフトウェア上の操作（例えばCD-Rへの書き込みなど）については、添付されているライティングソフトウェアCD-ROM内の説明書を参照してください。

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 光ディスクドライブのトレイを引き出したまま放置しない

使用上の注意

本装置を使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して装置を使用した場合、本装置または資産（データやその他の装置）が破壊されるおそれがありますので必ず守ってください。

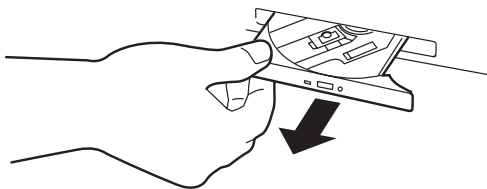
ディスクのセット/取り出し

ディスクは次の手順でセットします。

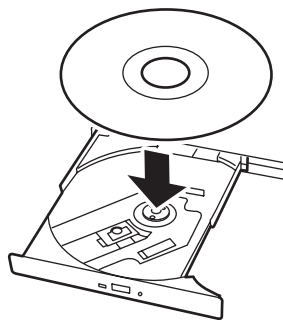
1. ディスクをドライブにセットする前に本体の電源がON（POWER/SLEEPランプが点灯）になっていることを確認する。
2. ドライブ前面のトレイジェクトボタンを押す。

トレイが少し出てきます。

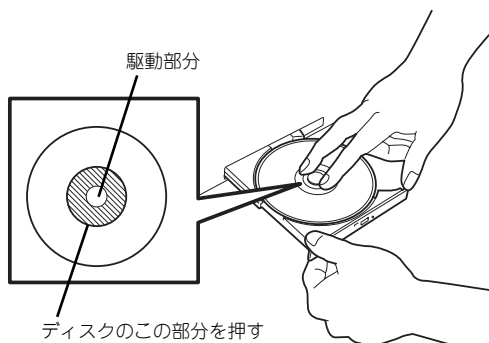
3. トレーを軽く持って手前に引き出し、トレイが止まるまで引き出す。



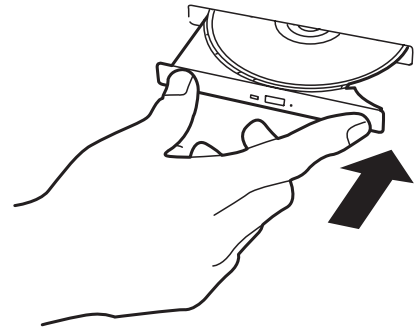
4. ディスクの文字が印刷されている面を上にしてトレイの上に静かに、確実に置く。



5. 図のように片方の手でトレイを持ちながら、もう一方の手でトレイの中心にある駆動部分にディスクの穴がはまるように指で押して、トレイにセットする。



6. トレーの前面を軽く押して元に戻す。

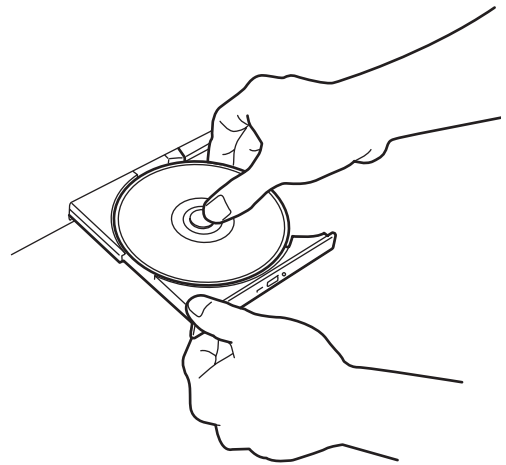


ディスクのセット後、ドライブの駆動音が大きく聞こえるときは、再度ディスクをセットし直してください。

ディスクの取り出しは、ディスクをセットするときと同じようにトレイジェクトボタンを押してトレイを引き出します。

アクセスランプが点灯しているときはディスクにアクセスしていることを示します。トレイジェクトボタンを押す前にアクセスランプが点灯していないことを確認してください。

右図のように、片方の手でトレイを持ち、もう一方の手でトレイの中心にある駆動部分を押さえながらディスクの端を軽くつまみ上げるようにしてトレイから取り出します。



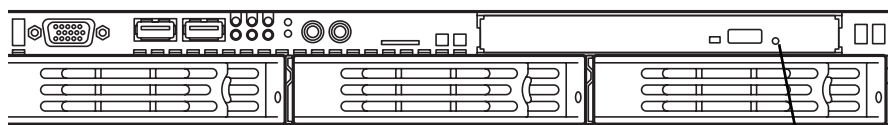
ディスクを取り出したらトレイを元に戻してください。

取り出せなくなったときの方法

トレイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない場合は、次の手順に従ってディスクを取り出します。

1. POWER/SLEEPスイッチを押して本体の電源をOFF（POWER/SLEEPランプ消灯）にする。
2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン（太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる）を光ディスクドライブのフロントパネルにある強制イジェクトホールに差し込んで、トレイが出てくるまでゆっくりと押す。

強制イジェクトホールの位置はドライブのタイプによって異なる場合があります。



強制イジェクトホール



- つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもディスクが取り出せない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

3. トレーを持って引き出す。
4. ディスクを取り出す。
5. トレーを押して元に戻す。

ディスクの取り扱いについて

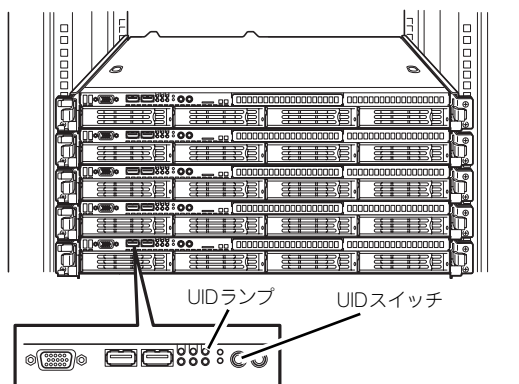
使用するディスクは次の点に注意して取り扱ってください。

- 規格に準拠しない「コピーガード付きDVD/CD」などのディスクにつきましては、DVD/CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。
- ディスクを落とさないでください。
- ディスクの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接ディスクに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

サーバの確認（UIDスイッチ）

複数の本装置を1つのラックに搭載している場合、保守をしようとしている装置がどれであるかを見分けるために装置の前面および背面には「UID（ユニットID）ランプ」がもうけられています。

UID（ユニットID）スイッチを押すとUIDランプが点灯します。もう一度押すとランプは消灯します。ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作している本装置の電源やインターフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。UIDスイッチを使って保守する本装置を確認してから作業をすることをお勧めします。



<装置背面>

